

はじめに

2020 年 1 月、新型コロナウイルスによる感染拡大が始まった。5 月の剣岳山行は見事に吹っ飛んだ。富山県に小窓尾根の登山届を出したら山岳警備隊の方から電話があり、事故を起こした場合の救助に著しい困難が生じるという。そりゃそうですよねと、剣岳近辺で何度か救助活動に加わった経験をお話しし、救助の大変さの話共有して労をねぎらいつつ、中川パーティーの入山断念をお伝えした。数カ月間、相当な勢いでトレーニングを重ねて来た気持ちが、ぱつぱつと切れ、がっくりきた。オリンピック中止になって引退したアスリートの気持ちがほんのちょっとだが、分かったような錯覚？を感じた。21 年 5 月もまた、剣岳は吹っ飛んだ。

今年 2022 年 5 月は、ここしばらくのブランクを自覚して少し緩やかに考えた。涸沢から北穂高東稜の 5 月アルパインクライミングを成功させ、今後の復活を期すことを目標にした。

実際の穂高は連日の降雪で山はまるで冬姿(図 1)。東稜核心部である上半部への取付きは雪崩の危険があって不可能。一計を案じ東稜中間部に取付いてみたところ、雪崩をうまく避けて登攀できた。雪が多いうえにアイゼンが壊れたため途中から懸垂下降で撤退したものの、中間部のトレースは初めてだし、雪崩を避けるルートファインディングでいい結果が得られて、相応の収穫を感じた。今後のために山行記録にまとめてみることにした。



図 1. 涸沢カールから北穂高岳頂上に至るうえで東稜の存在感は圧倒的に大きい。国立環境研地球環境研究センターの研究画像「温暖化影響モニタリング(高山帯)」の蝶ヶ岳サイトから引用。2022 年 5 月 10 日。5/3 は薄雲に覆われ画像の質が悪いので 5/10 を引用した。

行動記録

メンバーは、OWCC の中川和道・松田明博、もと OWCC 中谷雅一、奈良労山杉川明裕の 4 名。行程は 4/30 上高地より入山、5/1 涸沢ヒュッテ、5/2 テント停滞、5/3 北穂高岳東稜中間部トレース、5/4 下山。

2022 年 4/30 土 22 時、杉川の自家用車で宝塚発。5/1 日 6:50 アカダナ駐車場に着き 7:30 バス発。7:45 上高地着、すでにしとしと雨だ。8:35 明神、9:55 徳沢、11:30 横尾。雨が少し強くなってきて屏風岩の岩小舎あとで取った写真ではびっしょりぬれた姿で映っていた。13:30 本谷橋。ここから地面は完全な雪面だ。みぞれが雪にはっきり変わり、霧と雪で視界がほぼなくなった。救助隊の方も側でアイゼンを装着しておられ、先に登って行った。ここからが長かった。登れども登れども涸沢に着かない。20kg の荷が肩に腰にこたえる。16:45 やつと涸沢ヒュッテに着く。びしょ濡れの体と装備を乾かして東稜のクライミングに備えようと、1 泊目は小屋泊まりと決めた。素泊まり料金は 9000 円プラス当日予約ペナルティ 2000 円の計 11000 円だという。仕方なく受け入れた。旧館の 2 階奥の部屋を指定され、1 階広間の大きなストーブで全てを完全に乾かすことができた。幸



図 2. モルゲンルート。奥穂高岳からのナダレの強いアクセントが鮮やか。5 月 3 日。

せ・・・。

5/2 月:朝ちょっと晴れていた。読みどおりだ。モルゲンロートが美しい。本格的な降雪 20cm のあとなので、黄砂に汚れていただろう山々は、真白な原始の姿に戻っている。こうでなくっちゃ。涸沢岳や奥穂高岳から雪崩が落ちてきて止まっており、涸沢カールの広大な雪原風景に見事なアクセントだ。

小屋を出てテント場へ移動。これから下山ですというパーティーの跡地をいただき、30cm 掘下げて切り出したブロックで防風壁を補強。見上げると、北穂高岳南稜を多数のパーティーが登っていく。降雪直後の不安定な雪面なので、雪崩が起きるのではと、ひやひやしながら見つめた。彼らは通常の夏道ルートをたどっていた。何も起こらず、まずは安心。奥穂高岳を目指すパーティーはザイテングラートをめざして登行中だ。前穂高岳北尾根に至る雪面はさらに不安定そうで、誰ひとり足を踏み入れていない。今季はバリエーションどころではない多雪状況だ。我々はせめてルート偵察をと準備を始めたが、4 人とも疲れていて動作が遅い。やめた。本日はゆっくり沈殿を決め込む。

北穂東稜に向かうパーティー(2 人)がひとつだけあった。東稜上半部取付きを目指して氷河モレーンまでトラバースしたが、そこで断念し引き返した。やはりナダレが危険なのだろう。上半部は厳しい。

5 月の陽光に輝く涸沢には 50 張以上ものテントがひしめき、小屋のテラスには鯉のぼりが泳ぐ。楽しいひと時だ。涸沢小屋と涸沢ヒュッテを結ぶ幹線道路の向こう側で、イグルー作りに励むご夫妻に会った。出来上がった「お祝いです」とビールで乾杯に押しかけようかと話していたが、何と、空は雲で覆われ、吹雪になってしまい、この話は立ち消えとなった。降雪は 5cm ほど。翌日 5/3 のクライミングが心配だ。夜は星がきれいだった。

5/3 火:朝、またも晴れ。昨日も降雪だったから山が真白できれいなのはいいが、雪崩がこわい。3:30 起床、5:50 テント発。北穂高岳に向かうトレースたどって涸沢小屋の横まで来たら、2 人の山岳救助隊員が登山者たちに声をかけている。おひとりは女性だ。さてはこの方が現在唯一の女性救助隊員・依田紗季さんに違いない。ぜひご挨拶をと思ったら、他のパーティーに近づいて話し込み始められ、中川はチャンスを逸した。残念・・・。

昨日 5/2 に 4 名でルートファインディング討論をじっくりやった。その結果を踏まえ、北穂高岳に向かうトレースを 6:40 右に分かれ、雪上に並ぶ立木 3 本の列 100m をたどり(ルート図参照)、登攀開始だ。シュルンド状の箇所では 50m ロープを出す。

図 3 のとおり見事な晴天。ガストン・レビュファの著書に「太陽を迎えに」というのがあった。まさしくそのもので、山がきれいだ。コロナで吹っ飛んだここ 3 年間の春山の楽しさがどっと沸きあがった。

ひとつ目の 2550m ピークの下を右上トラバース気味に登る。1 ピッチ目 50m : 松田 L-杉川 m-中谷 m-中川 F (意味は松田リードで 50m ロープを張り、杉川、中谷が固定ロープ登攀で続き、ラストを中川が確保を受けて登攀)、2 ピッチ目 50m : 松田-杉川-中谷-中川、3 ピッチ目 50m : 杉川-中谷-中川-松田、4 ピッチ目 50m : 中谷-中川-松田-杉川。以上 200m の登攀で、東稜の稜線に出た。



図 3. 5 月 3 日、ひとつ目の 2550m ピークを目指す。先頭から松田、杉川、中谷の 3 名をラスト中川が撮影。

(つづく)